

川で遊ぼう・自然と友達になろう・みんなと友達になろう - 川を場とした体験活動について -

NPO法人 ひたかみ水の里 代表理事 新井 偉夫

東北地方は奥羽山脈を背骨に日本海と太平洋とに別れた生活、文化、風土等があります。また、北から南に向かって流れ故郷を醸し出す大河「北上川」があり、そこに流れ込む支流が数え切れないほどあり、生活は昔も今も支流の川を利活用して育んできました。

しかし、15年前ふと川を見ると、子供たちや大人が親しめる川で無くなっていたのに驚き、何とかならないものかと活動をはじめたのが今の原点になっています。

NPO法人ひたかみ水の里では、少しでも川が人々に愛され、遊ばれるとともに、魚の泳いでいるのが見えたり、昆虫や鳥たちが飛び交う風景を思いうかべ、これを活動の基本としています。つまり「川で遊ぼう（自然を知る）・自然と友達になろう（自然との共生）・みんなと友達になろう（協力と協同）」を基本として、「めだかっこクラブ」、「出前・川の楽校」、「リバーマスターズスクール」を3本柱として、地域や流域での活動を行っています。

『めだかっこクラブ』

「めだかっこクラブ」は、子供たちが川や田んぼで遊ぶことによって、自然とふれあい、自然を大事にすることを体で感じ取ることを目的に、常設の活動として毎月1～2回、小学校2年生から6年生の学童の参加を得て開催しています。

活動は、北上川の水質や生き物を調べる「北上川健康診断」や田植え、稲刈りを体験する「田んぼの学校」、北上運河から松島への「運河カヌー冒険の旅」など多岐にわたる活動をしています。



写真 - 1 北上川健康診断 - 透視計による水質の調査



写真 - 2 北上川健康診断 - 水の生き物の観察



写真 - 3 北上川健康診断 - 水の生き物の観察前説明会



写真 - 4 田んぼの学校 - 稲刈り体験

『出前・川の楽校』

「出前・川の楽校」は地域の学校の総合学習の支援活動として、川でのカヌー遊びの指導や魚取り、水質の調査などを実施しているものです。

昨年からの体験学習を通じて、先生や子供たちの中に「川をよくしたい」、「川と遊びたい」、「水をきれいにしたい」、「泳ぎたい」などさまざまな感動が生まれています。



写真 - 5・6 住吉小学校4年生「北上川ウォッチング」



『リバーマスタースクール』

子供たちが自然の中で体験活動することが未来の自然保護に必要であります。この子供たちを安全に自然に誘導できる大人のリーダーの育成も必要です。そこで、県内外から15名、NPO法人ひたかみ水の里メンバー4名の合計19名の20代～60代の男女が参加して、暑い夏の3日間（1日キャンプ1日旅館）で自然を学習するCONE*「自然体験活動指導者養成講座」リバーマスタースクール（初級）を開催しました。

この活動には、野外体験スクールの実践者、小学校の先生、海の民宿の経営者、消防士、デザイナー、塾の講師など、さまざまな職業の方が参加され、北上川河口を舞台に自然を体験学習されました。ハードルが高い3日間でしたが、真剣にまた和やかに修了されたことと思います。

*CONE：次ページ参照



写真 - 7 講習風景



写真 - 8 カヌー指導実践

「自然体験活動推進協議会（CONE）」、「川に学ぶ体験活動協議会」設立される

研究第一部 井山 聡

平成12年5月30日、自然体験指導者を登録・活用するとともに、広く自然体験活動の普及に貢献できる仕組みづくりを進めるため、「自然体験活動推進協議会」(Council for Outdoor & Nature Experiences (略名=CONE))が、関係団体の参加と文部省、環境庁、建設省、自治省、農林水産省、林野庁の支援のもと、設立されました。現在のところ、各団体の指導者養成カリキュラムをベースとした共通カリキュラム(自然体験活動リーダー(初級指導者)養成)それに応じた各団体の研修内容が作成されるとともに、研修修了者の登録制度、リーダーの活用方策、中・上級指導者養成方策等が検討されているところです。これまでに約100団体が入会、約250人の自然体験活動リーダーが登録されています。(財)ボーイスカウト日本連盟、(財)日本野鳥の会、(財)日本ユースホステル協会等のほか、河川関係では、NPO法人ひたかみ水の里、NPO法人帯広NPO28サロン、(財)河川情報センター、(財)河川環境管理財団、(社)日本河川協会、当センター等が入会しています。

ついで、9月6日には、川における自然体験活動の指導者の登録・活用、関連分野における調査研究、支援等を進めるため、「川に学ぶ体験活動協議会」が、全国の河川関係のNPO、NGO有志の参加と建設省の支援のもと、設立されました。当面、指導者養成のための共通カリキュラムと認定制度、活動に当たったの保険制度、活動支援方策等について検討していくこととしており、川における自然体験活動に固有の課題への取り組みを始めています。CONEと同様に当センターを含む河川関係の公益法人も参画しています。

川、水、自然に関わる市民団体等の創造的な活動が活発

化している今日、その主体的で独創的な活動を一層支援し、発展させるとともに、活動の持続性を確保することが課題となっています。当センターで平成11年より行っている「川に学ぶ」活動助成は、その一環と考えています。一方、河川を管理している国、都道府県、各地域の総合行政を担う市町村の体制の整備と職員の意識高揚、人材養成も不可欠となっています。これらの関係者のパートナーシップの確立も重要な課題で、当センターが編集した「ともだちになろう ふるさとの川 - 川のパートナーシップハンドブック -」(パートナーシップによる河川管理のあり方に関する研究会監修、信山社サイテック発行)に、その基本的な考え方と多くの事例が掲載されています。発足したばかりの両協議会の活動が、「川に学ぶ」社会の構築、さらには河川管理における行政機関と市民団体等との連携の促進に、大きく寄与することが期待されています。

問い合わせ先

・自然体験活動推進協議会

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

国立オリンピック記念青少年総合センター
業務課気付

TEL. 03-5465-0515 FAX. 03-5465-0516

・川に学ぶ体験活動協議会

〒104-0042 東京都中央区入船1-9-12

(財)河川環境管理財団内

「川に学ぶ体験活動協議会」事務局

TEL. 03-3297-2644 FAX. 03-3297-2677

<http://kasen.circle.ne.jp/>